

Newsletter

学会会報

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

< 目 次 >

- ・ 理事会報告
 - (1) 第 1 5 回大会プログラムの原案について
 - (2) 第 1 4 回大会決算書
 - (3) 各種委員会報告 (学会誌編集委員会、国際交流委員会)
 - (4) その他
- ・ 日本学会議 報告
- ・ 事務局から

< 理事会 報告 >

【 2003 年 11 月 8 日(土)午後 2 時 ~ 5 時 (於) 早稲田大学教育学部 】

今年度 2 回目の理事会が 11 月 8 日(土)午後 2 時から 5 時過ぎまで、早稲田大学教育学部 16 号館 612 号室で開催されました。

【 議題 】

(1) 第 1 5 回大会プログラムの原案について

大会日程について、大会担当校 (愛知教育大学 : 予定) の寺西理事から提案があり、審議の結果、原案を一部修正し、以下のように決定した。

2004 年 7 月 2 日(金)	17:00 ~ 19:00	理事会(夕食を含む)
7 月 3 日(土)	10:00 ~ 12:00	課題研究 ・
	12:00 ~ 13:00	昼食
	13:00 ~ 15:00	自由研究発表
	15:10 ~ 17:40	公開シンポジウム
	18:00 ~ 20:00	懇親会
7 月 4 日(日)	9:30 ~ 11:30	自由研究発表
	11:30 ~ 12:30	総会・昼食
	12:30 ~ 15:00	課題研究 ・

大会の企画案について、審議の結果、原案を一部修正し、以下のような案で検討することとした。最終決定は、次回理事会で行うこととした。

1) 課題研究は、学会として継続性のあるテーマと大会校企画のテーマ、そして、会員からの提案など最新の課題をテーマとした内容で企画することが確認された。

課題研究 : 「カリキュラム経営の質を高める教師の力量形成」

(世話人) 中留理事、小泉理事

(趣旨) 学校教師には、授業設計だけでなくカリキュラムを開発する力量が以前に増して求められている。本テーマでは、カリキュラムをどうつくるのか、そして、その質をどう高めるのかの経営的側面について議論する。

課題研究 (学会企画)「カリキュラム研究の基礎を問う その1」

(世話人) 田中(統)理事、梅原理事

(趣旨)“カリキュラム研究”そのものを取り上げ、数回(数年)にわたって、研究方法や意義について議論を進める。

課題研究 (大会校企画):「カリキュラムづくりに生きる学力評価のあり方」

(世話人) 寺西理事、天野理事

(趣旨) 成績をつけるためだけの学力評価、学力テストではなく、カリキュラムづくりに活かす学力評価のあり方を検討する。

課題研究 :「少人数指導のカリキュラムをどうつくるか」

(世話人) 天笠理事、山口理事

(趣旨) 少人数指導の有効性が様々な場面で主張されるなか、そのためにカリキュラムを如何に組み立てるかについての議論を行う。

2) 公開シンポジウム:(テーマ)「学習指導要領の『基準性』を問う」(仮)

(世話人) 寺西理事、長尾理事

(提案者) 子安会員、開催校地元教育委員会、ほか

(コメンテータ) 大槻課長(文部科学省)

(趣旨) 株式会社による学校の登場、教育改革特区、スーパーサイエンス/イングリッシュ・ハイスクールなどかなり特殊な学校教育が可能になりつつあるなか、その教育内容はどうなるのか、改めて学習指導要領における「基準性」について議論を尽くす必要がある。

以上の課題研究ならびに公開シンポジウムの提案者とその発表題目については、世話人から次回理事会(3月)に案を提案し、検討することとした。

(2) 第14回大会決算書

第14回大会準備委員会委員長 高田喜久司教授(上越教育大学)からの決算書が配布され、代表理事から補足説明があつて了承された。

(3) 各種委員会報告

学会誌編集委員会については、長尾委員(理事)が委員長代理として、国際交流委員会については山口委員長欠席のため、報告資料にもとづき代表理事が報告した。

大会活性化のため、研究委員会を機能させるよう委員長へ伝達することとした。

1) 学会誌編集委員会 報告

委員会は、10月18日14:00~17:30、京都大学教育学部にて開催した。

第13号の編集について

投稿数は、25編であった。

1論文あたりの審査員（レフリー）は、先の「謹告」の趣旨に沿って審査体制を強化し、従来の2名に変えて3名で構成することとする。さらに、審査の評価方法を3段階から4段階にすることとした。

論文投稿先の間違いが数件あった。今回は、学会事務局移転直後でもあり、受理することとした。編集委員会事務局（現在、委員長の研究室である京都大学内）であることを会員に周知することとした。

1件あたりの論文分量の換算に図表を盛り込むと、規定量を超えるものがあったが、図表を整理することで規定内に納まると判断し、受理した。今後の募集では、会員に周知する工夫をすることとした。

「特集」は総ページ数などの関係から、記念号以外では組まないこととした。

第12号での「謹告」後の経過

7月の理事会で本件は代表理事に対応が一任され、当該論文名ならびに著者名を匿名にした件について再度問い合わせがあったが、代表理事からの返信説明後は何もない。

同号の別論文の著者より、誤解を受けているとの問い合わせがあったが、処置について田中編集委員会委員長より説明したところ、その後の問い合わせはない。

「編集規程」、「投稿要領」の変更について

「編集規程」、「投稿要領」の語句と枚数規程などの修正案を作成した。

理事会において検討した結果、全体的には承認した。ただし、報告「編集規程」、「投稿要領」の変更の細かい点は再度委員会で検討し、3月の理事会に案を提出することとした。決定した内容は3月の会報で会員に周知徹底することとした。

2) 国際交流委員会 報告

韓国教育課程学会「教育課程研究」の件

韓国の教育課程学会誌第21巻第4号（2003年12月25日刊行予定）に、本学会の学会誌「カリキュラム研究」第12号所収論文8編の要約を掲載すべく、鄭栄根氏（本学会員）により翻訳作業が進んでいる。

海外カリキュラム研究情報 について

「カリキュラム研究」第13号に、「海外カリキュラム研究情報 第2回 中国」を掲載すべく（学会誌編集委員会承認済み）、本学会会員の鐘啓泉氏（華東師範大学教授）に執筆を依頼することとしたい。

第14号には、第3回として台湾を取り上げる意見がでている。

理事会では、報告 についてシンガポールや香港などの意見も出され、引き続き同委員会で検討することとした。

(4) その他

次回理事会を2004年3月6日に開催することとした。

< 日本学術会議 報告 >

本学会は日本学術会議に登録されており、教育学研究連絡委員会へ今年度はオブザーバーで参加しています。11月18日に第19期第1回会議が日本学術会議 第1部会議室で開催され、本学会から浅沼 茂会員（事務局長の代理として）が出席した。

< 事務局から >

（１）会費納入のお願い

年末は賞与の時期です。いまだに厳しい不況が続いておりますが、本学会の誇りの一つである高い納入率を維持するためにも、納入促進に会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。本年度学会費未納の方は、宛名ラベルのお名前の下に、未納年度（年会費：一般6,000円、学生3,000円、法人10,000円）を記載しております。同封の振込用紙をご利用になり、できるだけ早く納入し、気分よく新年をお迎えください。

（２）退会手続きについて（平成16年1月より）

退会は、事務局宛にご氏名とご住所、ご所属ならびに退会希望年度を連絡いただければ、手続きを開始、自動的に退会となります。ただし、年1度発行の学会誌の発送手続きの開始後（年度末3月）の退会のお申し出の方には、その年度の年会費は納入していただきます。お手元に届きました当該年度の学会誌を事務局までお送りいただければ、年度内の退会は可能です（送料はご負担願います）。学会誌在庫の管理のため、余剰は少なく印刷しております。どうぞご理解いただきたく存じます。

（３）お詫び

ニューズレター第32号送付の際、今年度入会の会員の方への宛名ラベルに“未納”として連絡してしまいました。事務局の出力ミスです。ご迷惑をおかけいたしました。

（４）学会ホームページ移行完了のお知らせ

整備が遅れておりました学会のホームページですが、名古屋大学からの移行が完了しました。

〒169 8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

早稲田大学 教育学部内

日本カリキュラム学会 事務局

TEL & FAX 03 - 3204 - 9246

or 03 - 5286 - 1561

振替口座番号：00880 0 69090

E mail : jscs@nifty.com

学会 URL :

<http://www.edu.waseda.ac.jp/jscs/index.htm>